

岩手農大同窓会会報

第22号
平成27年
3月6日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町蟹子沢14 TEL 0197-43-2211



多面的機能のけん引役

岩手県立農業大学校同窓会

会長 及川 誠

私たち同窓会は、県の農業教育機関の再編に合わせ、六華会（県立農試関係修了生）、六原農友会、県立浄法寺営農高等学園同窓会、さらには県立農業講習所・短期大学校同窓会、現農業大学校の同窓会の皆さんで構成されている巨大な組織であります。

本会は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的として、活動を展開しているところであります。支部毎の活動が停滞気味ではありますが、一年に一度でも機会を見つけ、交流親睦を図りたいものであります。

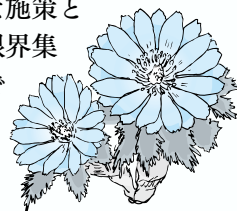
古くから農業界では「農業の多面的機能」という言葉はよく言われておりました。農業は農産物を生産するだけでなく水田ダムと言われるように、多様な生き物を育み、美しい農村風景で都市住民に安らぎを与えるなど、数々の恵みをもたらしているのですが、この恵みが、まさに「農業・農村の多面的機能」なのであります。

その農業・農村の多面的機能に国が交付金を支払う制度が、昨年より始まったことは、ご案内のとおりであります。地域の環境整備、農地の法面の草刈、農道整備、排水路整備、水路の泥上げなど、通常、地域の

農家の皆さんが行っている活動を協働で実施すれば、人夫の日当や工事費などの経費が交付金で賄える制度であります。しかしながら、岩手県内の事業導入は、思うように進んでいない状況にあります。

米価が60kg当たり一万円を割ったことにより、稲作農家の皆様は大きくハンドルをきらなくてはならない情勢となりました。こんな中、稲作をリタイヤする方や、野菜や果樹に経営転換する方で、水田を農地中間管理機構に10年以上の契約で貸した場合、交付金が支払われます。また、その農地の受け手にも集積協力金が支払われ、その地域にも地域集積協力金が集積割合によって支払われます。しかも、その単価は、平成27年までは特別単価で、それぞれ基本単価の2倍と4倍になるというのであります。

政府が一昨年発表した「農地中間管理事業」と「多面的機能支払交付金事業」は、農業の担い手である集落営農や認定農業者を支援、農業・農村の多面的機能を未来永劫まで保つために必要な施策と考えられます。農村の過疎化、限界集落にさせないために、県内各地で頑張る我々の仲間が、地域の多面的機能のけん引役になってほしいと思う、この頃であります。





同窓会報に寄せて ～ 農大の近況 ～

岩手県立農業大学校

校長 千葉 泰 弘



同窓会員の皆様におかれては、ご健勝で、ご活躍のことと思います。また、本校の教育活動の様々な場面で、ご協力を頂いておりますことに對し、改めて感謝申し上げます。

今年も間もなく卒業式を迎える時期となりました。今年度の卒業生は本科50名、研究科3名、合せて53名です。進路決定は順調で、ほとんどの学生は昨年末までに決定しています。就農（自家就農、研修後の就農及び雇用就農の合計）の比率が約50%と高く、中でも農業法人に就職して野菜栽培や家畜飼養に携わる雇用就農が多いのが特徴です。農業団体や農業関連企業への就職を併せると、ほとんどが本校で学んだ農業を活かす道を選択しています。学校としては、あすの農業・農村を担う多くの若人を送り出せることに、この上ない喜びを感じているところです。今後、様々な場面で同窓会員の皆様の力をお借りすることがあると思いますので、よろしくお願いします。

今年は学生の活躍が目立つ年でした。東日本ブロック予選を勝ち抜いてのプロジェクト発表全国大会への出場、全国的な論文・作文コンクールでの奨励賞受賞、技能五輪フラワー装飾部門への県代表としての出場、県獣医畜産業績発表会での研

究成果の発表、オーストラリアでの畜産研修への参加など、枚挙にいとまがありません。

昭和47年建築の体育館は天井裏のボードが剥がれるなど傷みが目立っていましたが、平成26年度9月補正予算で体育館新築や、食堂と女子寮などの改修の経費が措置されました。現在、27年度中の完成を目指し、設計を協議しているところです。県財政が厳しい折、関係各位に心から感謝申し上げます。引き続き、教育環境の充実に努めていく考えです。

また、校門から続く桜並木とともに、本館周辺の松の古木はこの地の歴史を感じさせる風景の一つでしたが、ここ数年松くい虫の被害に遭い、先人が大切に守ってきた松を伐採せざるを得ませんでした。残念の一言です。跡地には金ケ崎町から寄贈された数十本の桜苗木を植栽しました。数年後には多様な花色や花姿を持つ5種類の桜が桜並木とは違った魅力を提供してくれるものと思っています。

終わりに、同窓会員の皆様の益々のご多幸をお祈りするとともに、歴史ある六原の地で農業を志す若者が勉学や実習に励む岩手農大の教育活動に更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。近況報告とさせていただきます。

— 新たな旅立ちにあたり —

今春卒業し、同窓生の仲間入りする学生からの寄稿



▶ 新しい一歩

農産経営科2年 鈴木 慎太郎

私の実家は奥州市で水稻を栽培しています。高校までは部活動などの自分のしたいことを優先してきました。そのため家の手伝いをあまりすることが出来ませんでした。農業大学校に入ってから新しいことを多く学ぶことができ、とても充実した日々でした。そして、学校で学んだことを家や地元で生かしていきたいと考えました。4月からはJA岩手ふるさとに就職して地元に貢献できるよう頑張っていきたいです。また、家の後継者として経営にも頑張りたいです。



▶ 農業担い手として

農産経営科2年 五十嵐 俊弥

私は農大で2年間稲作について勉強しました。様々な資格、知識、技術もたくさん学ぶことができました。事例研究や卒業研究では実際に現場に出向き、見て聴いて体験し今後の稲作の在り方や“食”へのありがたみを改めて考えさせられました。

私は将来就農します。農大で学んだ2年間を活かし、これからの日本の農業を担っていくという自覚を持ち頑張ります。





▶ 四季成りイチゴ栽培のプロを目指して

野菜経営科 2年 小 泉 裕 也

私の実家は二戸市で専業農家として主に四季成りイチゴの栽培を行っています。農大には野菜栽培の知識を身につけ実家のあとを継ぐため入学しました。卒業後は北上市で四季成りイチゴの栽培を行っている農業法人に就職して経営について実践的に学びたいと考えています。その後実家に戻り、積み重ねた知識と技術を活かし実家の農業を大きくしていきたいです。

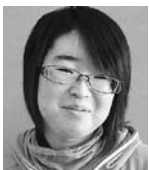


▶ 新たな旅立ち

野菜経営科 2年 福 田 み の り

私は、農大卒業後はＪＡいわて中央へ就職します。

ＪＡいわて中央に就職したならば、農大で学んだ知識を生かしながら、もっと農業に関する知識を身につけ、農家の方から信頼される農協職員になれるよう頑張りたいと思います。また、社会人の常識として「ほう・れん・そう」ができる人になりたいです。地域農業を支えたいと思いＪＡを選んだので、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。



▶ 社会人としての新たな一歩

果樹経営科 2年 池 田 理 絵

私は卒業後、北上市の有限会社北一農に就職します。北一農では、「すずあかね」という品種のイチゴの生産を中心に生産しています。私は高校時代から野菜や花、果樹について勉強してきましたが、イチゴについて触れるのは初めてです。就職後はイチゴについて勉強しながら、生産や労働の現場にいち早く慣れることを目標に、社会人としての新たな一歩を踏み出せるよう頑張ります。



▶ 信頼される果樹営農指導員を目指して

果樹経営科 2年 吉 田 大 地

私は、農産園芸学科で２年間果樹を専攻しました。実家も果樹農家でモモを栽培しています。幼い頃から農業に触れてきて、いつかは農業に携わる仕事に就きたいと思っていました。そんな私が、今春からＪＡいわて中央の職員になります。配属部署はまだ決まっていますが、農家の方々のお力になれるように一生懸命努力するつもりです。私の将来の目標は、地域の誰からも信頼されるような果樹の営農指導員になることです。



▶ りんどう農家のプロを目指して

花き経営科 2年 阿 部 衆 磨

私は八幡平市（旧安代町）の出身で、実家はりんどう農家です。

農大卒業後は、Ｔ＆Ｇバイオナーサリーに就職し、りんどう経営に必要な知識、技術を習得したいと考えています。そこで得たことを生かして、将来は就農し、実家の経営規模を拡大し、仲間と共に産地を盛り上げていき、技術を高め海外輸出にも取り組むことを目標に４月から頑張ります。



▶ 酪農経営の規模拡大を目指して

酪農経営科 2年 佐 藤 光 大

私の実家は宮城県栗原市で酪農（経産牛 35頭）と水稻（3ha）を経営しています。在学中は、酪農の実習などを頑張りました。また、フォークリフト運転技能講習、アーク溶接、ガス溶接、人工授精師、危険物取扱者などの資格取得に頑張りました。

大学卒業後は実家に戻り就農する予定ですが、就農後の将来の目標は、酪農経営50頭規模以上に拡大することです。



▶ 安定した酪農経営を目指して

酪農経営科 2年 田 澤 太 朋

九戸村の実家では酪農経営をしています。卒業後、実家に戻って就農します。実家の牛舎は34頭の搾乳牛舎と育成牛舎がありますが、今の搾乳牛舎はだいぶ古くなってきたので、牛舎を新築したいです。今後10年の目標として、良質牧草の管理や自ら削蹄などをして、できるだけ経費の掛からない経営管理を身に付けたいです。今後、早い段階に安定した経営の確立を目指し、更なる技術の習得に努めたいと思います。地元の皆さまよろしくをお願いします。



▶ 肉牛産地の発展に向けて

肉産経営科 2年 鈴 木 智 大

私は、ＪＡ岩手ふるさとから内定をいただきました。農大で学んだ事や取得した資格を活かして春からはＪＡ職員として頑張りたいと思います。実家でも和牛肥育経営を行っているので、ＪＡ、自宅の仕事、どちらの仕事の経験も積み、将来は地域の生産者のみなさんと一緒に地域の農業を盛り上げて、各種枝肉共励会で賞を取れるような産地づくりに貢献していけるように頑張りたいです。



▶ お世話になった方への恩返しのために

肉産経営科 2年 福 士 美 紀

私は春からＪＡ新しいわてで勤務する予定です。今まではいろいろな勉強をしてきた

ものの方向性が定まらずにいましたが、畜産の仕事という具体的にやりたい事や自分なりに目指す姿が見つかったので、これからは一つ一つの経験を大切にしながら勉強していきたいです。そして、将来、地域の農家のために頑張ることで、今までお世話になった方々に恩返しするとともに、親孝行もしていきたいです。

◆ 支部便り ◆

花 巻 支 部

OB「鎌田修氏」の紹介

支部役員 鎌田 伝四郎

支部紹介として一昨年に支部長の藤原さんが、花巻支部の概要を紹介しておりますので今回は、支部内で活躍している鎌田修氏を紹介します。

鎌田氏は、昭和52年3月に県立農業短期大学校を卒業すると同時に自営を志し、当時県養鶏協会会長の要職を務めていた御父君と共に、養鶏業の道を歩み始めました。

就農当時、家族四人で養鶏業を営む一方、水田4ヘクタールを所有していたことから、県養鶏協会会長として飛び回る父親の代わりに、早くから経営に携わることとなり、今では「鎌田養鶏場」として、レイヤー1万羽を飼養し、JA岩手花巻の産直「だあすこ」に出荷すると共に、花巻市内の飲食店数十店に新鮮な卵を自ら配達する毎日を過ごしています。



鎌田 修さん

また、耕種部門では、水稻を主としながら、近隣の農家が高齢化を辿る中であって、その耕作を引き受け、優良経営体として近隣に大きく貢献しています。

中でも特筆すべきは、氏の地域教育へ燃やす情熱の大きさです。

氏は現在、県養鶏協会の理事を務めるほか、JA花巻の全地区総代長でもあり、また、神楽の優秀な舞手でもあります。さらに、「湯本の子供の未来を語る会」顧問として地域の教育活動に敏腕を振るう中で、小、中学生への良き指導者でもあり、毎年地区内で開催される「教育交流会」の舵取り役として会の企画を練る他、交流会の講演者の選定・招へい等を行っています。また、小・中学生の発表力養成のための場の設定等を企図し、これにより親子の対話を一層醸し出すことにより、地域の子供たちは地域の宝であるということを公の了解事項とし、年ごとに少なくなる子供たちを地域全体で暖かな眼差しにより見守るべきという強い信念を持って、地域社会に大きく貢献しています。



一 関 支 部

地域での農大生の役割

支部長 槻山 隆

我が支部としての活動は特に実施していないのが実情であり、支部便りとして報告することがないため一関地域のことを紹介したいと思います。一関市は平成17年に合併し、10年目を迎えております。主産業は農林業であり、米や和牛・椎茸などを大規模に取り組んでいる同窓生も多くおり、農業情勢が厳しい中これからの中心的な存在となってけん引してくれるものと期待しております。

又、一関地域は、先の東日本大震災で原子力発電所から発生した放射能により汚染され、牧草の除染や椎茸の出荷停止・山菜類の出荷制限などにより中山間地

域などでは更に厳しい現状があります。

このような中で一関市厳美町で和牛繁殖を頑張っている佐藤政幸さんは、平成19年3月に本科肉畜経営科を卒業後すぐに就農し、父親が経営していた和牛繁殖を手がけ、現在は40頭規模の経営を行っています。



佐藤政幸さん

以前は、水稻栽培には取り組んでいなかったのですが、稲作経営をやめた農家の水田を借り受け、飼料用米等の栽培も手がけ、自給飼料の増産にも取り組んでいます。

近年、農家の減少が進む中で農地を維持する受け皿としての活躍が今後益々同窓生に期待されてくるものと思っています。今後も農業の担い手を育成する機関として農大の益々の発展を祈っております。

遠 野 支 部

農大同窓生遠野市農林水産振興大会
経営部門受賞 (宮守修一氏)

支部長 石 関 啓 志

今回は、遠野支部会員の活動実績について紹介します。

昨年の11月28日に開催された遠野市農林振興協議会主催による第6回遠野市農林水産振興大会において農業大学校同窓生の宮守修一さんが農林水産賞経営部門で表彰された話題です。

宮守修一さんは、現在遠野市綾織町に在住ですが、

昭和53年に大学卒業と同時に地元の企業に就職し26年間勤務しておりました。宮森さんの家の経営は地域の中では比較的耕地面積もあるほうで農業依存度も高い状態であり兼業で従事しておりました。しかし、その後、両親の高齢化により退職し農業に専念しました。

経営概況は、水田1.9ha、畑1.5ha、山林21.0haで、中心となる水田は大学当時の専攻が農業科であったことから何の抵抗もなく切り替えが出来ましたが、問題は約半年近い基幹労働力に余裕が出来ることでした。そこで目を付けたのは山林の有効活用です。各林業関係機関、森林組合等の指導を得ながら、捨て間伐、出し間伐、全伐、そして枝打ち等冬仕事として、17.0haに手を加えることができ、管理を軌道に乗せることが

出来ました。また常時森林巡回を行い、つる切り作業などの管理を実施し5年間で10.0haの森林整備事業を完了し、地域の森林所有者にも地区活動を通じて情報提供しておりました。また、地域内の牧野組合にも加入しており、組合員として組合所有森林の間伐を推進するなど、良質木材生産にも頑張ってきました。

今回の受賞は農業部門と林業部門を組み合わせ、年間の農業経営計画を樹立出来たこと、地域への波及などが大きく評価されたものです。今、農業・農村が求めていることは、こうした経営計画の樹立し、着実に実行出来る若い人たちの就農であり、そして常に地域の先頭・中心となって地域のけん引役となっているのは同窓生であることを実感いたしました。

二戸支部

農業大学校生と二戸地域 農業関係者との懇談会に参加して

支部長 高 崎 寛 志

現在、農業・農村はTPPや農業従事者の高齢化、担い手の減少、耕作放棄地や遊休地の増加などの問題が山積している中、昨年8月に軽米町農村環境センターにおいて、農業大学校の学生および職員、カシオペア農村青年クラブ員、二戸地方の岩手県農業農村指導士会員、農業大学校同窓会会員、市町村農業委員会、新しいわて農業協同組合、二戸農林振興センター、中央農業改良普及センター、軽米普及サブセンター、二戸農業改良普及センターの参加のもとに懇談会が開催されました。この懇談会は先輩農業従事者との懇談を通じて二戸地域の農業について理解と認識を深め、農大生の将来の円滑な就農と地域への定着を図ることを目的として二戸地方農林水産振興協議会、二戸農業改良普及センター、岩手県立農業大学校の主催で実施されました。

まず、地域農業関係者として農業農村指導士1名、カシオペア農村青年クラブ員4名、青年農業者2名の方々より、今現在農業に従事している経営内容や将来の展望、課題等について発表があり、さらに出席した農大生13名からは専攻や研究テーマ、将来の夢等についての発表がありました。その後の情報交換で、農大生は真剣な眼差しで地域農業者である先輩からの話を聞いている姿を見て、この学生たちは今後農業大学校において自分の学ぶべき意義や目的を改めて自覚し勉学に励み、地域農業の担い手になる人材として成長することを期待させるものがありました。いずれこの学生たちが農業大学校を巣立って地域に戻り、就農あるいは農業関係職種に就職することと思いますが、地域農業の活性化のために大きく羽ばたいてほしいと思います。

同窓生として、この農業大学校生と地域農業関係者との懇談会に参加する機会を得て、本当に有意義で充実した一日を過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいでした。今後も農業大学校生の同窓生としてできる限り後輩を応援し、関係機関と一緒に地域農業の山積する諸課題の解消に取り組まなければならないと思います。一日でもありました。

ヤンマー学生懸賞論文・作文募集で「奨励賞」を受賞!

本校では学習活動の一環として、ヤンマー学生懸賞論文・作文募集の作文の部に全校をあげて取り組んでおり、今年度は75編の作文を応募しました。

全国から応募のあった596点の中から、農産経営科2年五十嵐俊弥さんの作文『私はお米が大好きです』が奨励賞を受賞しました。

五十嵐さんの実家は、遠野市綾織町で水稲16haと和牛4頭の経営を行っており、作品の中では、農家に生まれた自分は米が大好きで、自分を成長させてくれた米、そして農業に恩返しした

いという気持ちが強く、そのために、地域の信頼関係を大事にしながら地域の水田を守り、オンリー

ワンのブランド化をめざし独自の販売ルートを確認するなど、具体的な内容を文章として書き表し、みごと賞を受賞しました。

将来は、地域農業の担い手として頑張る決意を持っています。今後、一層の活躍を期待します。



全国農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会に参加(2月)



東日本農業大学校等プロジェクト発表会を勝ち抜いた2名が全国プロジェクト発表会で発表しました。

研究課程部門では、研究科の千葉龍一さんが農事組合法人の経営分析を行って課題や改善方向を明らかにした内容を取りまとめ発表し、特別賞

(株)日本農業新聞賞)を受賞しました。

また、養成課程では、果樹経営科2年の佐藤夢真さんが収穫前落果や収穫後の裂果が多い岩手県オリジナルりんご品種「黄香」について、早期収穫と追熟による出荷時期の拡大と増収の可能性について発表し優良賞を受賞しました。

今年の大会には農産経営科1年加藤諒さんと酪農経営科1年橘貴弘さんが、千葉龍一さんと佐藤夢真さんの発表補助として参加し、また発表会の運営のために、果樹経営科1年佐藤拓馬さん、肉畜経営科1年奈良岡園子さんが運営委員として参加し大会の開催準備や運営に携わりました。



平成26年度卒業生の進路について (平成27年2月末現在)

今年度の卒業生は、本科50名、研究科3名の計53名ですが、このうち自家就農は酪農3名、肉畜2名の計5名、農業法人等への就職、いわゆる雇用就農のほか研修も含めると23名となっており、就農率53%となっております。地元農協等に勤めながら自家農業に従事する者も含めると6割を超える学生が卒業後に農業生産に従事する結果となりました。

主な進路は次のとおりです。

- 農業法人等：下館農産、北一農、西部開発農産、(有)かさい農産、T&Gバイオナーサリー、小西農場、葛巻ヘルパー組合 ほか
- 農業関係団体：JA新しいわて、JAいわて中央、JAいわてふるさと、NOSAI盛岡
- 農業関連企業：みちのくクボタ、岩手農蚕、水沢農薬、サセキ東北 ほか
- 進学：岩手大学農学部、弘前大学農学生命科学部、タキイ園芸専門学校



平成26年度岩手県立農業大学校同窓会事業計画 (抜粋)

平成26年4月22日(火)に農業大学校本館2階会議室で開催された総会で決定した事業計画の概要は次の通りです。

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の発行等により組織活動の強化を図ると共に、農業大学校の教育目標の達成を支援する事業を次のとおり実施することとしております。

- (1) 支部活動の促進 (支部活動への助成)
- (2) 同窓会会員台帳の整備
- (3) 同窓会会報の発行：平成27年3月上旬 1,000部
- (4) 農業大学校卒業生 (直近5年間) 交流への支援
- (5) 農業大学校事業支援
 - ア 農大祭の支援：平成26年10月25日(土)～26日(日)
 - イ 農業創造シンポジウムの支援：平成26年11月14日(金)
 - ウ 本科2年生の海外農業研修支援
平成26年9月1日(月)～8日(月) アメリカ合衆国カリフォルニア州
 - エ 「緑の学園」(オープンキャンパス) 事業支援
第1期：平成26年7月31日(木)、第2期：平成26年8月7日(木)

- (6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連盟への参加
 - ア 全国連盟総会 平成26年6月19日(木) 東京都
 - イ 東日本連盟総会 平成26年6月12日(木)～13日(金) 北海道
- (7) その他
 - ア 平成26年度入学式 平成26年4月9日(水)
 - イ 平成25年度卒業式 平成27年3月10日(火)

【平成26年度を振り返り】

※ 平成26年度の実績では、農業大学校事業への支援はほぼ計画どおり実施しましたが、支部活動支援は2支部という実績でありました。

※ 多くの同窓会員が県内各地で活躍しておりますが、会員相互のネットワークを形成し連携を深めることにより、それぞれの経営確立や地域の活性化に向けた活動の一助となると思いますので、支部活動や同級会等の取組みについても次年度に積極的に取り組んでいただければと存じます。(博)